

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	知識集約型社会を支える人材育成事業			担当部局庁	高等教育局		作成責任者
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定)年度	令和6年度	担当課室	大学教育・入試課		大学教育・入試課長 古田 和之
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	・「成長戦略実行計画」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「経済財政運営と改革の基本方針2019」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「AI戦略2019」(令和元年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議決定)		
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	科学技術振興費、教育振興助成費		
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-4_1.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	Society5.0時代等に向け、狭い範囲の専門分野の学修にとどまるのではなく、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するため、全学的な教学マネジメントの確立を図りつつ新たな教育プログラムを構築・実施するとともに、質と密度の高い主体的な学修を実現することを目的とする。						
現状・課題 (5行程度以内)	・学術研究や産業社会においては、分野を超えた専門知の組合せが必要とされる時代であり、一般教育・共通教育においても従来の学部・研究科等の組織の枠を超えた幅広い分野からなる文理横断的なカリキュラムが必要。 ・産業界においても、新しい事業開発や国際化の進展の中で、高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力を備えた人材育成が求められている。						
事業概要 (5行程度以内)	各大学が、時代の変化に応じ多様な教育プログラムを持続的に提供していくためには、全学横断的な改善・改革の循環を生み出す基盤・システムを学内に形成することが不可欠であり、これらへの対応と一体的に幅広い教養と深い専門性を持った人材育成に向けた教育改革を実現する取組を支援。 具体的には、以下の3テーマについて新たな教育プログラムを構築・実施。(メニューⅠ及びⅡ：令和2年度より、メニューⅢ：令和3年度より) ・メニューⅠ：文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム（レイトスペシャライゼーションプログラム、ダブル・メジャープログラム、分野融合の学位プログラム等） ・メニューⅡ：非凡な才能をもった学生に「個別最適化した学び」を実現するための、出る杭を引き出す教育プログラム ・メニューⅢ：授業科目を大胆に絞り込み、一定期間、精選された授業科目を週複数回実施し、密度の濃い学修を実現する、インテンシブ教育プログラム						
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/intelligence.htm						
実施方法	補助						
補助率等	定額						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	409	513	436.4	324.4	192.2
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	12	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	▲ 12	-	-	
		予備費等(E)	▲ 61	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	348	501	448.4	324.4	192.2	
	執行額(G)		295	439	446.6		
	執行率(%) =(G)/(F)		85%	88%	100%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		72%	86%	102%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		高等教育振興費		-		
	(目)		大学改革推進等補助金				
	(目)	知識集約型社会を支える人材育成事業	319.3	186.9			
	(目)	庁費	4.4	4.6			
	(目)	職員旅費	0.4	0.4			
	(目)	委員等旅費	0.3	0.3			
	(目)	諸謝金	-	-			
		その他					
	計(A)		324.4	192.2			

活動内容① (アクティビティ)		複雑・高度化する社会課題等に対して、普遍的な見方から事象の全体像を捉える能力を備えつつ、文系理系・分野を越えた複数の深い専門知の組み合わせからアプローチできる力を備えた人材育成を進めるため、取組を行う学部等において、複数のディシプリン(学問の知識体系)や、それぞれの基盤となる原理や思考のフレームワークを理解・修得し、その修得した知識・スキルを実際の社会に適用することのできる能力を育成するカリキュラムを構築するとともに、モデルとして普遍化し、学内及び他大学に普及・展開する教育プログラムを構築する大学等に対する補助を行う。									
↓											
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		文理横断・学修の幅を広げる教育プログラムの構築・実施	教育プログラムの事業実施件数	活動実績	件	5	5	5	－	－	
				当初見込み	件	5	5	5	5	5	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現することを目標とし各プログラムを実施することから、事業に必要な実施体制の構築、魅力あるプログラムの開発を行うことにより、カリキュラムの参加学生数が進捗するものと想定されるため。									
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度		
		文理横断・学修の幅を広げる教育プログラムによる幅広い教養と深い専門性を持った人材の育成	構築されたカリキュラムの参加学生の割合	成果実績	%	－	98	512	－		
				目標値	%	－	100	100	100		
				達成度	%	－	98	512	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省における事業実施状況調査 ※令和2年度まではカリキュラム構築準備を実施しており、3年度よりカリキュラムの展開が始まることから、実績は3年度より記載。									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	各学校の取組の進捗状況等について評価を行う中間評価や事業の成果について評価を行う事後評価においては、各大学が採択時に目標とした学生の参加数やカリキュラム数、実施体制などを総合的に判断することから、事業全体が目標に到達していれば、A評価以上を取得でき、幅広い教養と深い専門性を持った人材育成とそのための教育システム改革を達成することができたものと考えられるため。									
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度		
		幅広い教養と深い専門性を持った人材育成のための教育システム改革の実現	中間評価・事後評価のA評価以上の件数	成果実績	件	－	－	4	－		
				目標値	件	－	－	5	5		
				達成度	%	－	－	80	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューⅠ) 中間・事後評価結果									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									

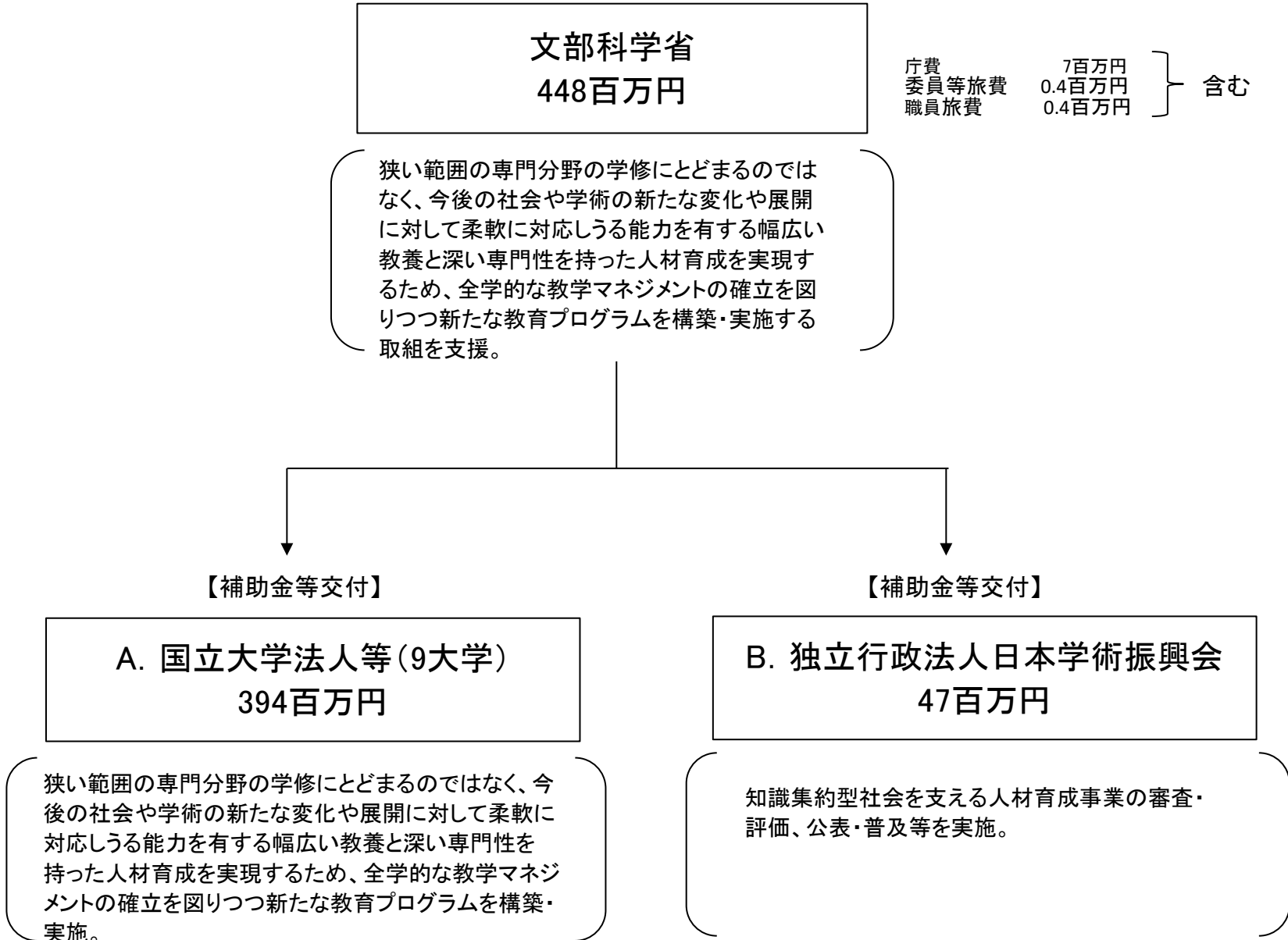
活動内容② (アクティビティ)		特定の分野で特に優れた資質を有する学生に早期から更に高い水準の教育機会を提供し、その才能の一層の伸長を図ることで、知識集約型社会において我が国を牽引していく人材を養成するカリキュラムを構築し、学内及び他大学に普及・展開する教育プログラムを構築する大学等に対する補助を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		出る杭を引き出す教育プログラムの構築・実施	教育プログラムの事業実施件数	活動実績	件	1	1	1	－	－
				当初見込み	件	1	1	1	1	1
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	出る杭を引き出す教育プログラムの構築・実施を行う中で、高度な教育内容の提供、分野の連続性に配慮しつつ早期履修を可能とするカリキュラムを構築し、非凡な才能をもった学生に、魅力ある先端研究を見据えた「個別最適化した学び」を実現するための修士課程の科目を学士課程で数多く実施するものと想定されるため。								
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		特定の分野で特に優れた資質を有する学生に対する早期からの更に高い水準の教育機会提供による人材養成カリキュラムの構築	修士科目の学士課程における先行履修科目数	成果実績	件	－	－	23	－	
				目標値	件	－	－	24	24	
				達成度	%	－	－	95.8	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文部科学省における事業実施状況調査 ※令和3年度まではカリキュラム構築準備を実施しており、4年度よりカリキュラムの展開が始まることから、目標は実施大学にて4年度より設定。								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	各学校の取組の進捗状況等について評価を行う中間評価や事業の成果について評価を行う事後評価においては、大学が採択時に目標としたカリキュラムで構築した修士科目の学士課程における先行履修科目数など、各種指標を総合的に判断することから、事業全体が目標に到達していれば、A評価以上を取得でき、幅広い教養と深い専門性を持った人材育成とそのための教育システム改革を達成することができたものと考えられるため。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度	
		幅広い教養と深い専門性を持った人材育成のための教育システム改革の実現	中間評価・事後評価のA評価以上の件数	成果実績	件	－	－	1	－	
				目標値	件	－	－	1	1	
				達成度	%	－	－	100	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューⅡ) 中間・事後評価結果								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容③ (アクティビティ)		学士課程において、各学期で精選された授業科目を週複数日実施することで、密度の濃い教育課程を実現するための教育システム改革を進める大学等に対する補助を行う。									
↓											
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		インテンシブ教育プログラムの構築・実施	教育プログラムの事業実施件数	活動実績	件	－	3	3	－	－	
				当初見込み	件	－	3	3	3	3	
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	インテンシブ教育プログラムの構築・実施する中で、授業科目を大胆に絞り込み、精選された授業科目を週複数回実施することにより、プログラムの履修学生に対し密度の濃い学修が提供され、幅広い教養と深い専門性を持った人材の育成が進捗することが想定されるため。									
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度		
		インテンシブ教育プログラムによる幅広い教養と深い専門性を持った人材の育成	インテンシブ教育プログラムを履修する学生の数	成果実績	人	－	－	238	－		
				目標値	人	－	－	799	799		
				達成度	%	－	－	29.8	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省における事業実施状況調査 ※令和3年度から支援を開始したメニューであり、令和3年度まではカリキュラム構築準備を実施し、4年度以降、一部のカリキュラムを試行し順次展開することから、実績は4年度より記載。									
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	各学校の取組の進捗状況等について事業の成果について評価を行う事後評価においては、各大学が採択時に設定した達成目標や実施体制などを総合的に判断することから、事業全体が目標に到達していれば、A評価以上を取得でき、幅広い教養と深い専門性を持った人材育成とそのための教育システム改革を達成することができたものと考えられるため。									
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度		
		幅広い教養と深い専門性を持った人材育成のための教育システム改革の実現	事後評価のA評価以上の件数	成果実績	件	－	－	－	－		
				目標値	件	－	－	－	3		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューⅢ) 事後評価結果									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	人件費・謝金	事業運営に係る専門人材、事務補佐員への人件費等	24	人件費・謝金	業務担当職員人件費、事業委員会委員手当等	24
	その他	システム管理・改修経費、印刷製本費、会議費等	16	その他	会議費、外注費、印刷製本費等	15
	物品費	学習環境整備、消耗品等	7	旅費	会議出席旅費、現地訪問旅費等	7
	旅費	調査旅費、外部人材招聘旅費等	3	物品費	消耗品費	1
	計		50	計		47
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック

